

総務省 情報通信政策局 情報通信利用促進課 委託調査

国内外における 視聴覚障害者向け放送 に関する調査研究

報告書の概要

2006年8月21日

株式会社三菱総合研究所

1 調査研究の概要

1-1 調査研究の目標

- ・ 本調査は、今後、総務省としての新たな視聴覚障害者向け放送に関する施策立案等に資するために、基礎資料として、視聴覚障害者向け放送を取り巻く実態を把握することを目的に実施したもの。

1-2 実施内容

- ・ 本調査で実施した内容は、以下の通り。
 - ① 国内聴覚障害者アンケート調査
 - ② 国内視覚障害者アンケート調査
 - ③ 国内中高年層アンケート調査
 - ④ 米国の字幕放送等に関する調査
 - ⑤ 英国の字幕放送等に関する調査
 - ⑥ 韓国の字幕放送等に関する調査
 - ⑦ 中国の字幕放送等に関する調査
 - ⑧ 国内における字幕放送等の今後の展望に関する調査
- ・ なお、本報告における字幕放送とは、他に記述が無い限り、クローズドキャプション（CC）付き放送のことを指す。

2 聴覚障害者アンケート調査結果

2-1 アンケート調査概要

実施期間：2006年2月28日～2006年3月10日

対象地域：全国7大都市圏（札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡）

配布対象者：聴覚障害者450名（聾啞者150名、中途失聴・難聴者300名）

配布方法：聾啞者について財団法人全日本聾啞連盟の依頼を受けて各地区の聾啞者団体が、また中途失聴・難聴者について社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会の依頼を受けて各地区の難聴者・中途失聴者団体が、それぞれ回答者を選定し、各団体から各回答者に郵送または直接手渡して配布。返送は郵送。

配布内訳：聾啞者、中途難聴者・失聴者の双方において、配布対象者は以下のように配布。
男女比＝1：1（全国の聴覚障害者の男女比に合わせて）

年齢構成：50歳未満が約15%、50歳以上が約85%となるよう（全国の聴覚障害者の男女比に合わせて）

地域別：上記7地域それぞれにおいて7分の1ずつ

回収数：213（回収率＝47.3%）

2-2 回答者属性

(1) 性別

男性：32%、女性：66%、無回答：2%

(2) 年齢

40代以下：30%、50代：23%、60代：30%、70代以上：16%、無回答：1%

(3) 所属団体

聾啞連盟：30%、難聴者・中途失聴者協会：68%、無回答：2%

(4) PC活用状況

活用：59%、未活用：39%、未回答：2%

(5) インターネット活用状況

活用：53%、未活用：42%、未回答：5%

(6) テレビ方式

デジタル：19%、アナログ：65%（内CC受信機保有：20%）、無回答：1%

(7) 同居健常者の有無

有：73%、無：22%、無回答：5%

(8) 失聴年齢

10歳以下：45%、11歳以上：47%、無回答：8%

(9) 障害級数

1～2級：72%、3级以上：21%、無回答：7%

(10) 普段の生活様式

在宅が多い・どちらかと言うと多い：26%、外出が多い・どちらかという多い：55%、どちらとも

言えない・無回答：19%

(11) 音声・字幕依存度

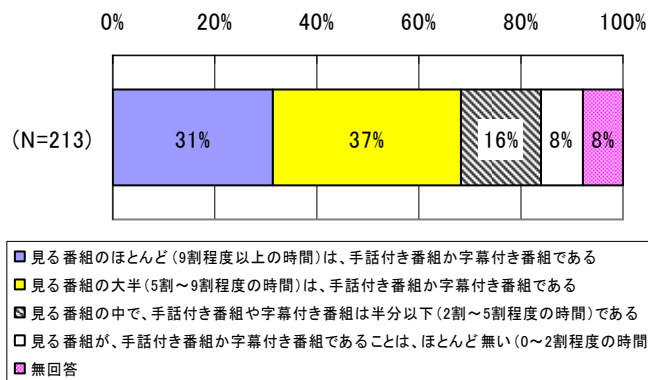
字幕・手話のみ（音声には頼らず）：41%、音声と字幕・手話を併用：46%、主に音声（字幕・手話は補助）：9%、無回答：5%

2-3 一般的なテレビ番組の視聴状況

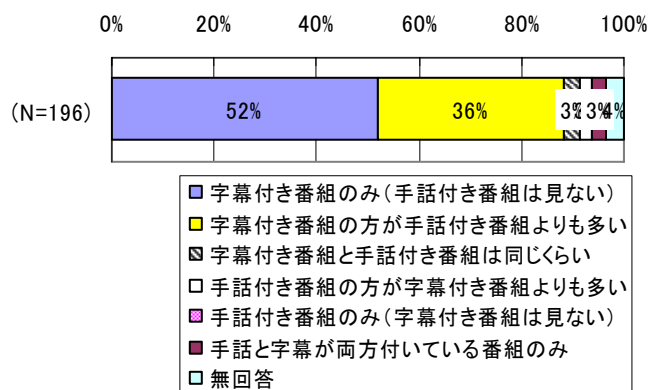
- ・ 1日のテレビ視聴時間は、「1～3時間」見ている回答者が最も多い。（平日 54%、休日 42%） 1日4時間以上見ている割合は33%（平日）～39%（休日）となる。
- ・ テレビ視聴時間帯は「午後6時～午前0時」に見ている回答者が最も多い。（平日 79%、休日 83%）
- ・ 良く見るジャンル（字幕／手話付きか否かは問わず）は、ニュース・天気予報（83%）、バラエティ（59%）、その他娯楽番組（ドラマ、アニメ等）（53%）等。

2-4 字幕・手話番組の視聴状況

- ・ 見る番組の9割以上は「字幕か手話付き」という人=31%、見る番組の5割～9割は「字幕か手話付き」という人=37%であり、字幕・手話付き番組は多くの聴覚障害者にとって、よく見られている。

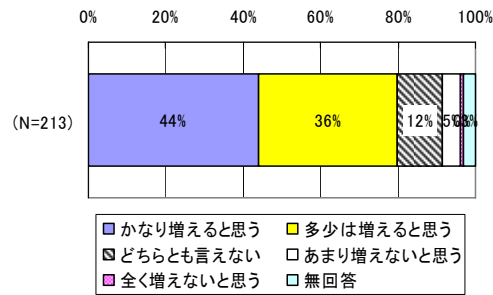


- ・ 字幕と手話のどちらの番組を見ることが多いかという点については、視聴可能な番組の数を反映している面もあるとは思われるが、「字幕番組のみ（手話番組は見ない）」「字幕番組の方が手話番組よりも見ることが多い」という回答を合計すると88%に達し、字幕番組の方が多く見られている。

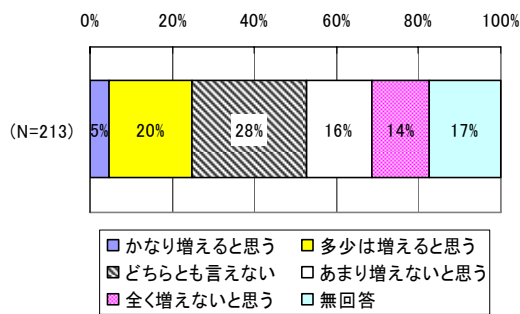


2-5 字幕・手話番組と今後のテレビ視聴

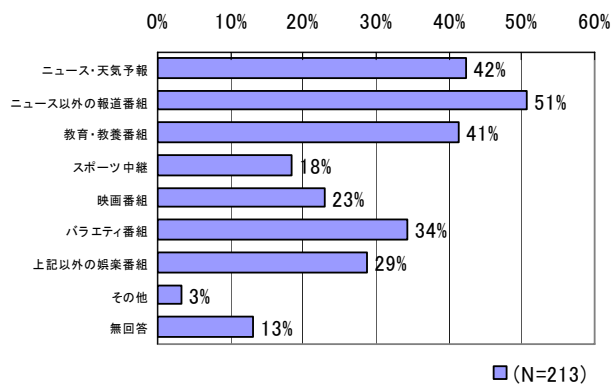
- 字幕番組が増えればテレビ視聴が（かなり/多少）増えると思う回答者は、全体の80%。



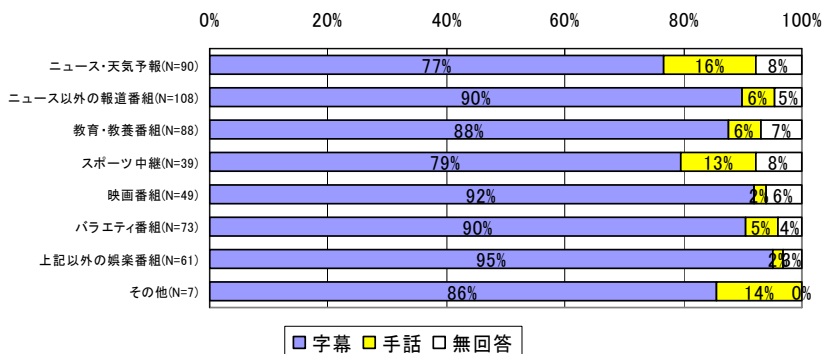
- 手話番組が増えればテレビ視聴が（かなり/多少）増えると思う回答者は、全体の25%。



- 字幕や手話を増やして欲しいジャンルとしては、ニュース以外の報道番組（ニュース解説、討論、ワイドショー等）、次いでニュース・天気予報、教育・教養番組を望む割合が高い。

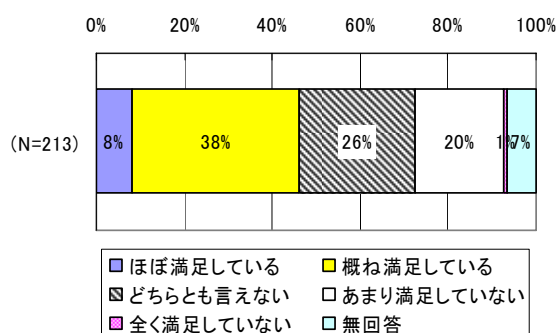


- 字幕か手話を付与して欲しい番組ジャンルについて、字幕と手話のどちらを付与して欲しいかという点については、字幕を要望する割合が高い。

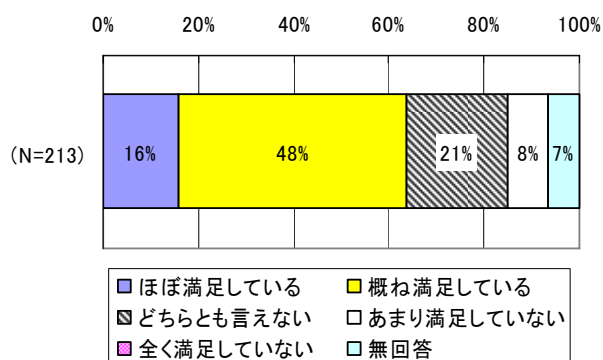


2-6 字幕・手話の見易さ、判りやすさ

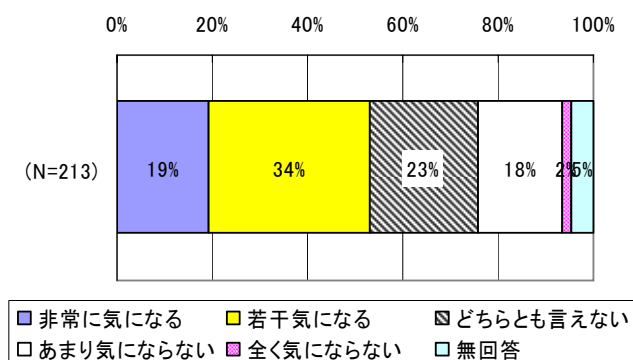
- 字幕自体の見易さ（字の大きさ、明るさ、位置等）については、「満足」と「概ね満足」の合計が、全体の半数弱の46%という結果となった。



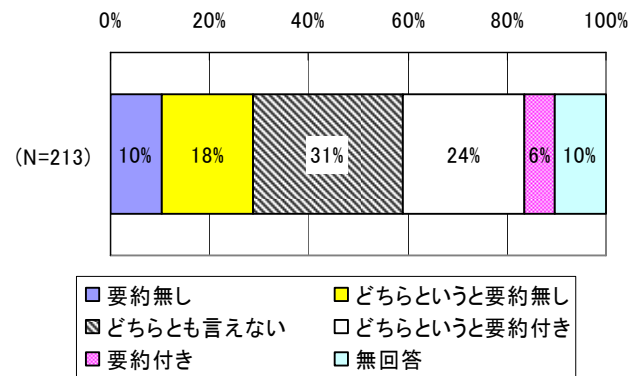
- 不満足の原因としては、文字化け、途中で切れる、画面との関係で見辛くなる、字が小さい等の意見が挙げられた。
- 字幕の判りやすさ（表示されている文字は読み取れても、その意味が伝わるかという点）については、「満足」と「概ね満足」の合計は64%という結果となった。



- 不満の原因としては、内容が正確でない時がある、字幕が見つからない部分が存在する、スピードが速すぎる、言葉の選択が不適當、誰の台詞か判らない、等の意見が挙げられた。
- 生放送の字幕のタイムラグが「非常に気になる」割合と「若干気になる」割合を合計すると53%という結果となった。



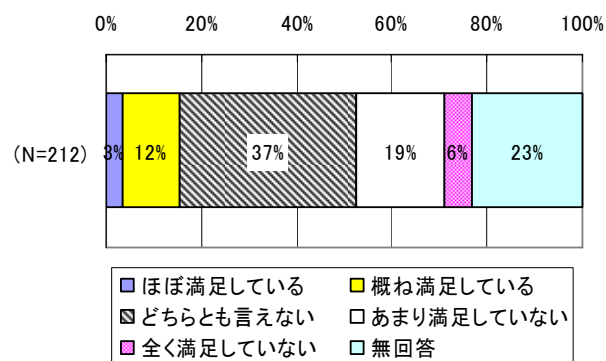
- 字幕を要約せずにそのまま表示するケース（ニュース等の生放送番組で実施）と、ある程度要約してから表示するケース（生放送以外のほとんどの番組で実施）の、どちらが望ましいかという点については、「要約無し」「どちらかというと要約無し」の合計 28%と、「要約付き」「どちらかというと要約付き」の合計が 30%と、ほぼ並ぶ結果となった。



- なお、この点についてクロス分析を行った結果、以下のようなことが判明した。

- 年齢が高くなると要約を望む割合が高くなる傾向にある。
- 失聴年齢が高いほど要約を望む割合が高くなる傾向にある
- 障害レベルが重いほど要約を望む割合が高くなる傾向にある。

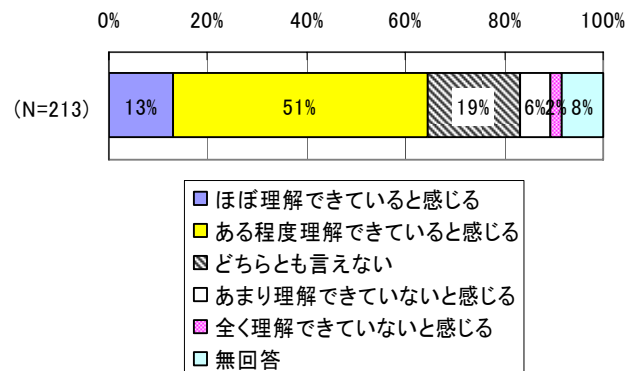
- 手話付き番組の判りやすさについては、「満足」と「概ね満足」の合計が 15%と、「あまり満足していない」と「全く満足していない」の合計 25%を下回る結果となった。



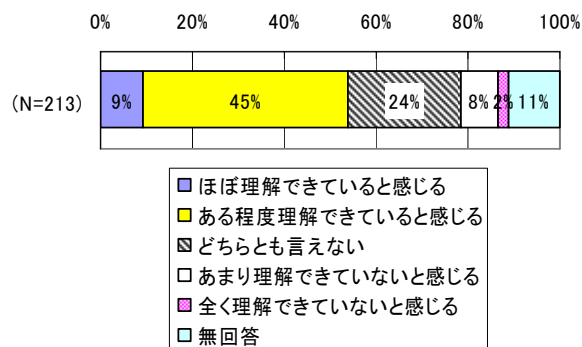
- 不満の理由としては、画面が小さすぎる、口語が付かないことがある、要約のし過ぎ、スピードが速すぎる、自分（回答者）の地方表現と違う手話が使われている、等の意見が挙げられた。

2-7 オープンキャプション・テロップについて

- ・ ニュース・情報番組では、64%の回答者が、オープンキャプション・テロップ（以下OC）により番組内容を「ほぼ理解できていると感じる」または「ある程度理解できていると感じる」と回答した。

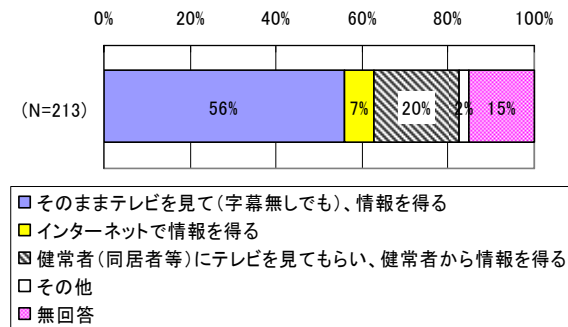


- ・ なお、この点についてクロス分析を行った結果、以下のようなことが判明した。
 - 年齢が高くなるとOCで満足する傾向が高まる
 - 失聴年齢が高いほどOCで満足する傾向が高まる
 - 同居健常者が居るとOCで満足する傾向が高まる
- ・ 娯楽やバラエティ番組では、54%の回答者が、オープンキャプション・テロップ（以下OC）により番組内容を「ほぼ理解できていると感じる」または「ある程度理解できていると感じる」と回答した。
- ・ なお、この点についてクロス分析を行った結果、以下のようなことが判明した。
 - 失聴年齢が低いほどOCで満足する傾向が高まる
 - 同居健常者が居るとOCで満足する傾向が高まる



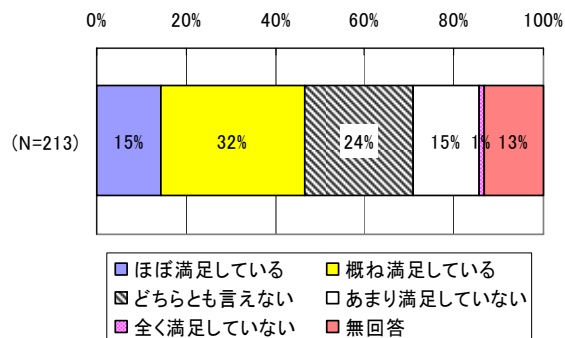
2-8 緊急時放送について

- テレビ放送中に緊急ニュースの第一報をテロップで見た後、より詳しい情報を知りたいと思ったとき、どのような対応を行っているかという点については、56%がそのまま（字幕等無しでも）テレビを見続けて情報を得ており、緊急時でもテレビが重要な情報源として利用されている傾向が伺える。



2-9 受信機について

- 受信機の利用しやすさについては、「ほぼ満足」と「概ね満足」の合計が半数近くの47%に達する。



3 視覚障害者向けアンケート調査結果

3-1 アンケート調査概要

実施期間：2006年2月28日～2006年3月10日

対象地域：全国47都道府県

配布対象者：視覚障害者600名

配布方法：社会福祉法人日本盲人会連合会（日盲連）にてアンケート票を点訳し、次いで、日盲連から各地区の盲人団体に同アンケート票を送付。日盲連の依頼を受けた各地区の盲人団体は、回答者を選定し、各団体から回答者に直接郵送や手渡し等でアンケート票を配布。返送は郵送。点字で返送されたアンケート票については日盲連にて通常の文字に変換。
なお、各地区において配布できる部数に制約があることから、配布地域については、聴覚障害者向け調査のように全国7大都市圏に限定せず、全国47都道府県とした。

配布内訳：配布対象者は以下になるよう配布を行った。

男女比＝1：1（全国の聴覚障害者の男女比に合わせて）

年齢構成：50歳未満が約10%、50歳以上が約90%となるよう（全国の視覚障害者の男女比に合わせて）

地域別：各都道府県均一になるよう。

回収数；267（回収率＝44.5%）

3-2 回答者属性

(1) 性別

男性：66%、女性：32%、無回答：3%

(2) 年齢

40代以下：25%、50代：29%、60代：33%、70代以上：9%、無回答：3%

(3) PC活用状況

活用：63%、未活用：34%、未回答：3%

(4) インターネット活用状況

活用：52%、未活用：43%、未回答：5%

(5) 同居健常者の有無

有：55%、無：39%、無回答：5%

(6) 視覚を失った年齢

10歳以下：39%、11歳以上：51%、無回答：10%

(7) 障害級数

1級：67%、2級：11%、3級以上：3%、無回答：19%

(8) 普段の生活様式

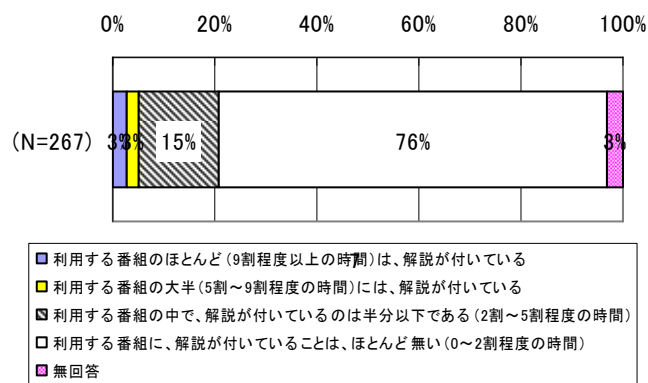
在宅が多い・どちらかと言うと多い：52%、外出が多い・どちらかという多い：34%、どちらとも言えない・無回答：15%

3-3 一般的なテレビ番組の視聴状況

- 1日のテレビ視聴時間は「1～3時間」見ている回答者が最も多い。(平日 51%、休日 53%) 1日に4時間以上テレビを視聴している割合は27% (平日) ～28% (休日) 程度である。
- 参考までにラジオについては、1日に4時間以上ラジオを聴取している割合は44% (平日) ～34% (休日) であり、ラジオの方が利用されている。
- テレビの視聴時間帯は、「午後6時～午前0時」に利用している回答者が最も多い。(平日 68%、休日 67%)
- ラジオの視聴時間帯は、平日は「午前7時～午後0時」に聴いている回答者が最も多い(42%) が、休日では「午後6時～午前0時」に聴いている回答者が最も多くなる(39%)。
- 良く利用するテレビ番組のジャンルは、ニュース・天気予報(81%)、ニュース以外の報道番組(ニュース解説、討論、ワイドショー等)(55%)、スポーツ中継(47%)等である。

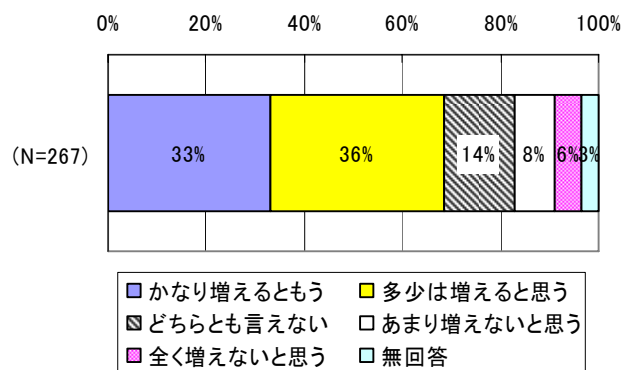
3-4 解説番組の視聴状況

- 「利用する番組に解説が付いていることは、ほとんど無い」という回答が76%に上る。これは、実際に解説番組が少ないことを反映していると思われる。

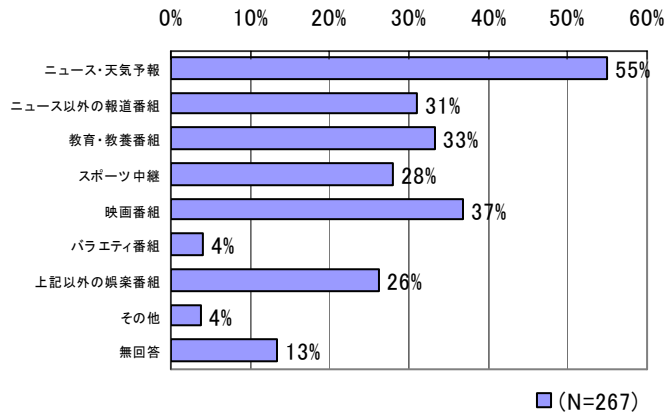


3-5 解説付き番組と今後のテレビ視聴の関係

- 解説が増えればテレビ視聴が(かなり/多少)増えるという割合は69%。



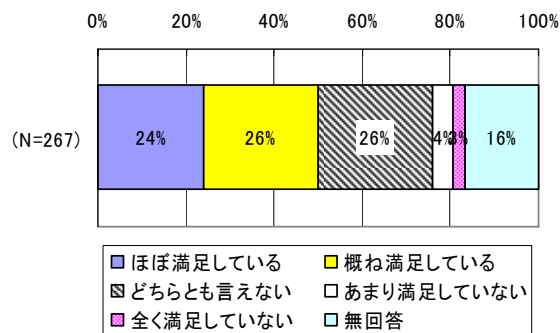
- ・ 解説を増やして欲しいジャンルとしては、ニュース・天気予報（55%）、映画番組（37%）等。



- ・ なお、ニュース・天気予報番組への解説増加ニーズについては関連分析を後述。

3-6 解説の判りやすさ

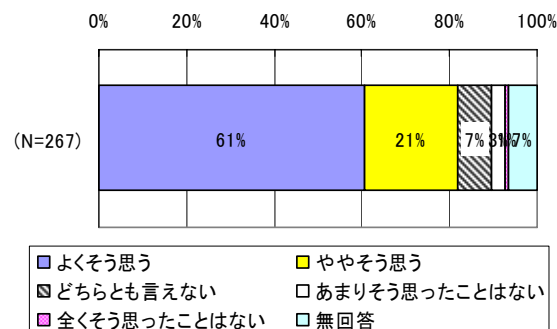
- ・ 「満足」と「概ね満足」の合計が50%。



- ・ 不満足の原因としては、内容が不十分（想像つきにくい、描写の不的確など）、説明が細かすぎる、台詞と解説が重なる、等の意見が挙げられた。

3-7 通常番組について

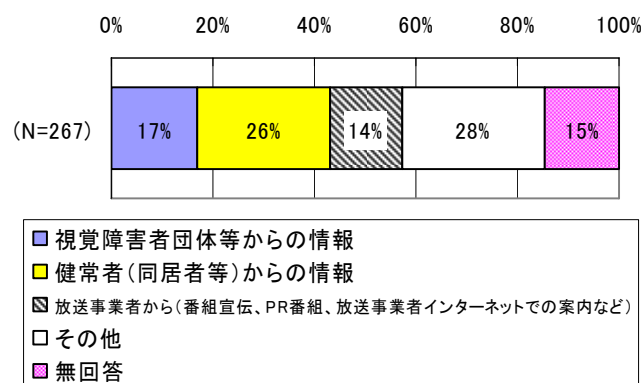
- ・ 解説番組ではない健常者向け番組における、アナウンサー等による「これ」「あれ」等の指示語の多用や、外国人が話す場面で外国語が訳されないこと等について、改善を（強く/やや）望む割合は、82%。



- なお、この「通常番組の判りにくさに対する不満」が、3-5 節の解説を付与して欲しい番組ジャンルに「ニュース・天気予報」が挙げられていることに影響を与えている可能性が高い。
 - 3-5 節の解説を増やして欲しい番組ジャンルで、「ニュース・天気予報」を挙げた回答者は、全体では前述の通り 55%であるが、「通常番組における指示語の多用や外国語が音声として訳されないことを改善して欲しいか」という設問に「よくそう思う」と回答した層の中では 60%に達する。

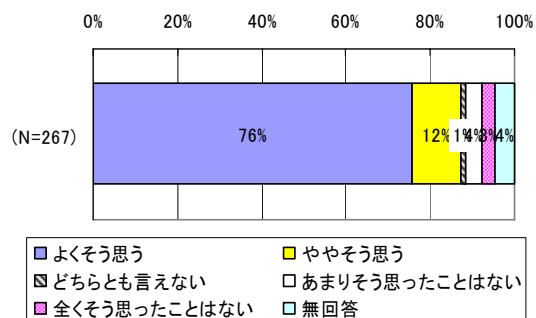
3-8 解説番組の探し方

- 解説番組の探し方は、同居する健常者（26%）、視覚障害者団体からの情報（17%）等であった。

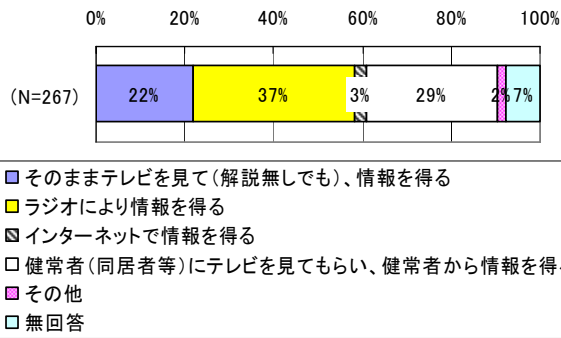


3-9 緊急時放送について

- 緊急ニュース速報等の警告音に対し、それがどんな内容の緊急放送か（ニュース速報なのか、気象関係速報なのか）判断できずに不便に思ったことがある割合は、合計 88%。

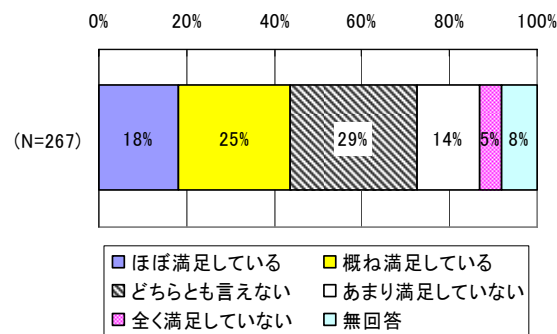


- 警告音後の情報収集手段としては、ラジオ（37%）、健常者からの情報（29%）に次いで、テレビ（22%）であった。

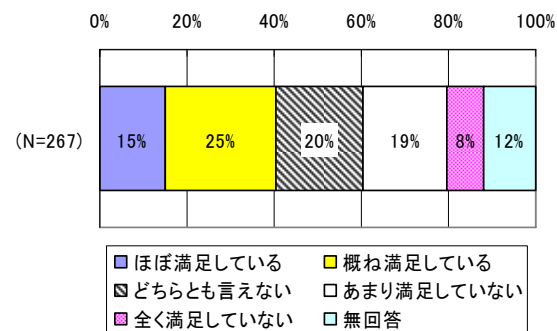


3-10 受信機について

- 受信機の使いやすさに対しては、「ほぼ満足」と「概ね満足」の合計が43%。



- 不満の理由としては、副音声機能の使い方が困難、副音声のボリュームが調節できない、副音声に切り替わっているかが実際に副音声流れるまで判らない、等の意見が挙げられた。
- リモコンの使いやすさに対しては、「ほぼ満足」と「概ね満足」の合計が40%。



- 不満の理由としては、ボタンが多すぎる（特にデジタルテレビ）／小さすぎる／区別できない、ボタンを押したときの反応音が欲しい、メーカーによってボタンの位置がバラバラ、等の意見が挙げられた。

4 中高年層向けアンケート調査結果

4-1 アンケート調査概要

実施期間：2006年2月28日～2006年3月3日
対象地域：全国7大都市圏（札幌、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡）
配布対象者：50歳代以上の男女
配布方法：インターネットアンケートにより実施。Goo Researchの会員から、上記条件を満たす会員にメールを送信し、予め設計した回答画面にて回答してもらった。
回答者が目標の200に達した時点で調査を終了した。（最終的な回答者数は219件）

4-2 回答者属性

- (1) 性別
男性：49%、女性：51%
- (2) 年齢
50～54歳：45%、55～59歳：31%、60～64歳：9%、65～69歳：7%、70歳以上：8%
- (3) 同居者の有無
有：89%、無：11%

4-3 回答者層におけるテレビの見易さ・聞き易さ

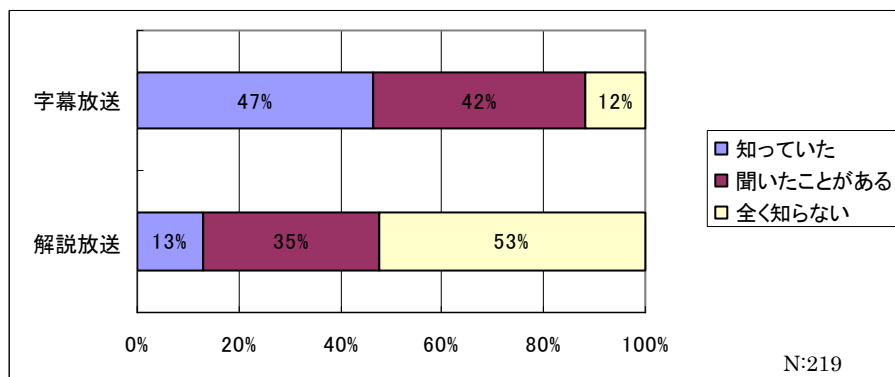
- ・ 今回の回答者層では、「普段から見辛い」または「見辛いことがある」割合は8%。
- ・ 同様に、「普段から聞き取り辛い」または「聞き取り辛いことがある」割合は13%。

4-4 一般的なテレビ番組の視聴状況

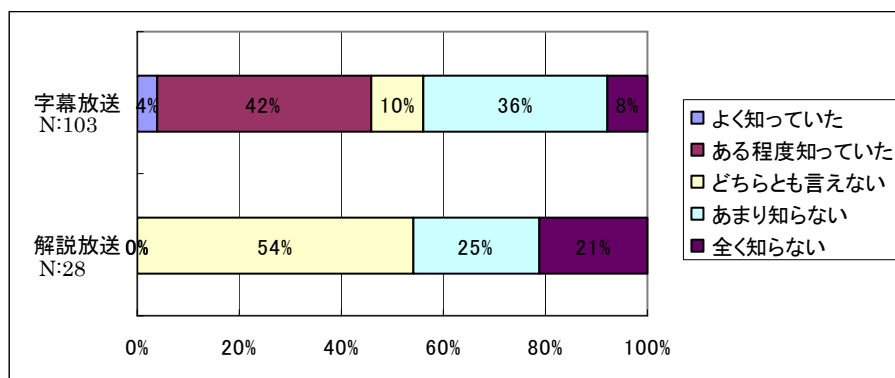
- ・ 1日のテレビ視聴時間は「1～3時間」見ている回答者が最も多い。（平日51%、休日38%）1日に4時間以上テレビを視聴している割合は39%（平日）～57%（休日）程度である。
- ・ テレビの視聴時間帯は、「午後6時～午前0時」に利用している回答者が最も多い。（平日84%、休日87%）
- ・ 良く利用するテレビ番組のジャンルは、ニュース・天気予報（79%）、ニュース以外の報道番組（ニュース解説、討論、ワイドショー等）（52%）、バラエティ番組（48%）等である。

4-5 視聴覚障害者向け放送の認知状況

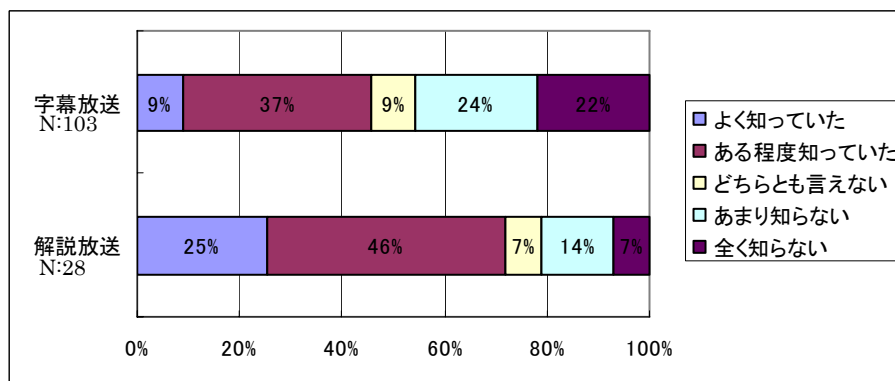
- ・ 字幕放送を知っていたのは47%、聞いたことがあるのは42%。
- ・ 解説放送を知っていたのは13%、聞いたことがあるのは35%。
- ・ (なお、以降では手話放送については質問しておらず。)



- ・ 但し、字幕放送を知っていた回答者の中で、具体的番組名までを知っているのは、「良く知っている」4%及び「ある程度は知っている」42%の合計の、46%程度
- ・ 同様に、解説放送を知っていた回答者の中で、具体的番組名まで「ある程度は知っている」のは54%。

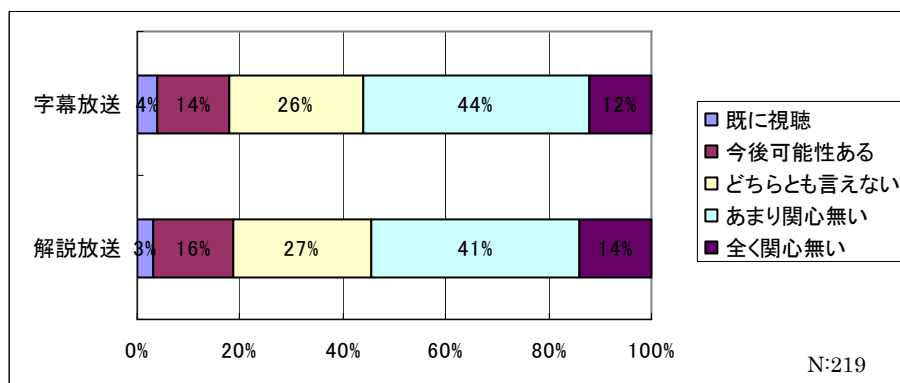


- ・ また、字幕放送を知っていた回答者の中で、視聴方法（専門受信機の必要性等）までを知っているのは、「良く知っている」9%及び「ある程度は知っている」37%の合計の、46%程度。
- ・ 同様に、解説放送を知っていた回答者の中で、視聴方法（副音声の必要性等）までを知っているのは、「良く知っている」25%及び「ある程度は知っている」46%の合計の、71%程度であり、解説放送のことを認知している場合は、利用の仕方まで認知されている傾向が強い。

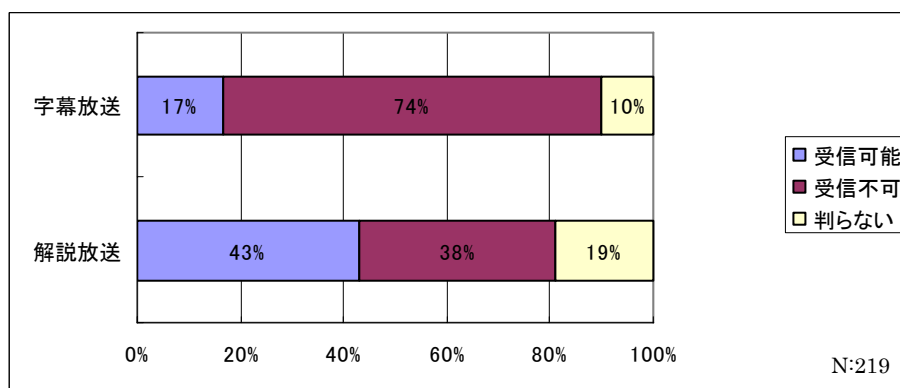


4-6 字幕放送等の利用意向等

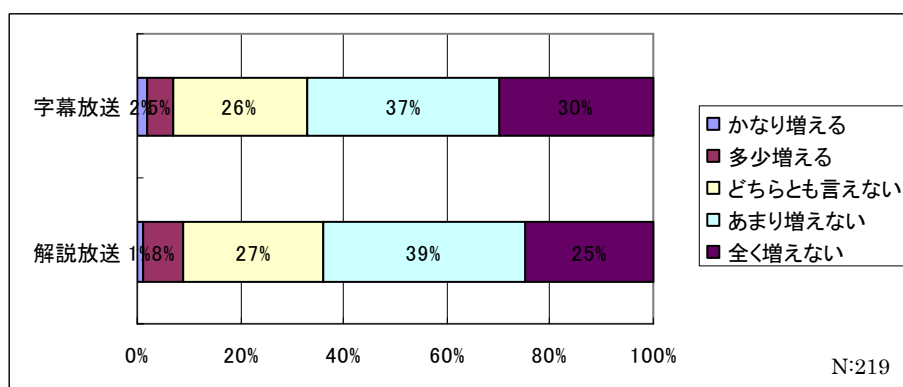
- ・ 字幕放送について「今後視聴する可能性がある」と回答した割合は14%。これとは別の4%が既に視聴中。
- ・ 解説放送について「今後視聴する可能性がある」と回答した割合は16%。これとは別の3%が既に視聴中。



- ・ なお、現在の視聴環境で字幕放送を受信できるのは、17%。
- ・ 同様に、現在の視聴環境で解説放送を受信できるのは、43%。



- ・ 一方、字幕放送が増えればテレビ視聴が(かなり/多少)増えると考えるのは、7%。
- ・ 同様に、解説放送が増えればテレビ視聴が(かなり/多少)増えると考えるのは、9%。



5 米国字幕放送等に関する調査

5-1 番組への字幕や解説付与の義務付け

- 1990年のAmericans with Disabilities Act (ADA)制定以降、米国社会では障害者への機会平等に対する認識が拡大、また障害者差別が厳しく禁止。放送関連では、公共の場でのテレビや映画等に字幕や手話、解説を付与することが義務付け。
- ADAの制定を受けて、放送分野でもTelevision Decoder Circuitry Actが同じ1990年に制定され、13インチ以上のテレビ受信機へのCCデコーダー内蔵が義務付け。
- 1998年からFCCは、各放送局等に対する以下のような字幕放送(対象:英語の番組)付与義務を開始。(但し、例外規定はある。)

新番組(1998年1月1日以後初放送)	四半期毎のCC付与義務
放送開始時期:2000年1月1日~2001年12月31日	最低450時間
2002年1月1日~2003年12月31日	最低900時間
2004年1月1日~2005年12月31日	最低1350時間
2006年1月1日~	100%
従来番組(1997年12月31日以前初放送)の放送	
放送時期:2003年1月1日~2007年12月31日	30%
2008年1月1日~	75%

- 手話放送と解説放送には付与義務は制定されていない。
- 解説放送への付与義務(週50時間以上の義務付け等)は2000年にFCCにより一度提案されているが、MPAA(Motion Picture Association of America)が「FCCにそのような権限は無い」と主張・提訴し、2002年に連邦上訴裁判所がMPAAの主張を認める判決。

5-2 字幕放送等の放送実態

- 字幕放送については、上記の付与義務が達成されている。
- 手話放送は、大統領の公共演説やシンポジウム等の番組で主催者が手話通訳を用意する場合や、地域社会のニュース等、一部で実施。
- 解説放送は、2004年3月時点で放送されているものとしてPBS系では16番組、CBS系で2番組、NBC系で4番組及び一部の映画、ABC系で一部の映画、FOX系で4番組がある。またNickelodeonをはじめとするケーブルチャンネルでも解説放送は実施されている。

5-3 字幕放送等に対する制度的支援

- 教育省がIndividuals with Disabilities Act (IDEA)を1997年に制定。これにより、教育番組やニュース、情報提供番組等への字幕付与を助成。
- IDEAは2004年に再延長(2011年まで)。この際に、付与されるものとして解説も追加。また付与対象としてテレビ番組以外にビデオ、DVD等も追加。

- ・ IDEA の規模は、毎年 1200 万ドル程度。(字幕・手話の合計：両者への配分については不明)
- ・ 手話に対する政府助成はなされていない模様。

5-4 字幕等付与の実際

- ・ 字幕制作はほとんどのケースで、専門業者への外注により実施。
- ・ 字幕制作の外注業者として、聴覚障害者団体により公認されているのは全米 37 社。
- ・ 字幕制作費は、内容や、生か録画かといった点にもよるが、概ね 1 時間当たり数百ドル。
- ・ 字幕制作費の負担は、政府（助成の対象になる番組の場合）、スポンサー企業、チャリティー団体等、及び放送局や番組制作会社自身。
- ・ 生字幕の場合、裁判所速記専門学校等で訓練を受けた人材が担当し、精度は 98% 以上。多くは、特殊キーボードを利用。こうした人材の団体として、National Court Reporters Association (NCRA) 等があり、NCRA のメンバーは 27000 人に達する。
- ・ 上記とは別に、リスピーク方式も一部で採用。
- ・ 制作方法やスケジュール等は日本とほぼ同様。
- ・ 解説の制作もほとんどのケースで、専門業者への外注により実施。
- ・ 代表的な専門機関としては、WGBH (PBS 系列のボストンの公共放送局) の Media Access Group 等。
- ・ 解説制作費は、内容にもよるが、概ね 1 時間当たり数百ドル。
- ・ 解説制作費の負担は、政府（助成の対象になる番組の場合）、スポンサー企業、チャリティー団体等、及び放送局や番組制作会社自身。
- ・ 制作方法やスケジュール等は日本とほぼ同様。

5-5 字幕等付与のドライビングフォースと今後の展望

- ・ CC について、日本よりも付与が進んでいる背景には、制度的側面に加えて、以下のような社会的状況が大きく作用している事情があると考えられる。
 - 英語の入力が日本語に比べると容易である点
 - 人口当たりの視聴覚障害者の数が多い点¹
 - 障害者の情報アクセス保障に対する社会の意識が高く、差別と捉えられると訴訟を含めて社会的制裁を受けやすくなっている点。
- ・ 今後については、字幕は質の向上が、また解説は量の拡大が、課題。字幕に全く問題ない番組の割合は、録画番組で 64%、生放送番組で 30% 程度との調査結果もある。但し罰則などは無い。

5-6 緊急放送

- ・ 通常番組を中断するような緊急ニュース放送では、緊急情報を主音声で伝えるのに加え、CC、OC、テロップ等で提供する必要がある。そうではない緊急情報（テロップで流すのみ）の場合、警告音

¹ 聴覚障害者の人口比は、日本では公式統計で 0.2% だが、米国では National Center for Health Statistics によると人口比 0.2~1.7%。同センターによると、「何らかの聴覚障害を持つ」人の人口比は 3.5%。

を出すことが必要。

- ・ 上記を順守しない放送局に対して FCC は罰金を課す。2005 年は 7 局が罰金を支払っている。

6 英国字幕放送等に関する調査

6-1 番組への字幕や解説付与の義務付け

- ・ 2005 年 3 月に OFCOM が Code On Television Access Services の中で字幕・手話・解説放送に関する 10 年間の普及目標（義務）を公表。BBC も OFCOM と締結した BBC Agreement により同様の目標を制定。

英国の字幕放送等の普及目標

基準年後の年	OFCOM			BBC1, 2			その 他 BBC		
	字幕	解説	手話	字幕	解説	手話	字幕	解説	手話
1 年目	10	2	1	85	6	3	60	6	3
2 年目	10	4	1	90	6	3	70	6	3
3 年目	35	6	2	95	8	4	80	8	4
4 年目	35	8	2	97	8	4	90	8	4
5 年目	60	10	3	100	10	5	100	10	5
6 年目	60	10	3						
7 年目	70	10	4						
8 年目	70	10	4						
9 年目	70	10	4						
10 年目	80	10	5						

単位：対象除外とされなかった全番組の放送時間に占める割合（%）

- ・ 但し、例外規定はある。
- ・ なお上記目標の決定経緯としては、視聴覚障害者団体や放送局等と調整して決定。

6-2 字幕放送等の放送実態

- ・ 2004 年度の主な放送事業者の実績をみると、全ての局が目標達成。

主な放送事業者の字幕放送等目標値の達成度（2004）

	字幕		音声解説		手話	
	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
BBC ONE	85%	90.4%	6%	6.7%	3%	3.1%
BBC TWO	85%	92.1%	6%	6.2%	3%	3.1%
BBC THREE	60%	70.6%	6%	13.0%	3%	3.7%
BBC FOUR	60%	62.9%	6%	7.3%	3%	3.6%
CBBC	60%	67.6%	6%	5.3%	3%	3.3%
CBeebies	60%	77.7%	6%	7.6%	3%	3.8%
BBC News 24	60%	60.6%	適用除外	-	3%	3.0%

	字幕		音声解説		手話	
	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
民放 ¹						
ITV1(excl. GMTV)	83%	92.2%	6%	6.5%	3%	3.2%
ITV2	39%	44.0%	6%	7.9%	3%	3.6%
GMTV1	58%	91.1%	適用除外	-	3%	3.1%
GMTV2	39%	40.2%	6%	13.1%	3%	5.2%
Channel 4	80%	82.0%	6%	9.6%	3%	3.2%
Five	60%	62.2%	6%	6.1%	3%	3.1%

1 民放の目標は改定前の旧目標値

6-3 字幕放送等に対するその他制度

- ・ 字幕や手話、解説の品質について、OFCOM ではガイドラインを制定。
- ・ 例えば、字幕放送における文章の分割方法、表示スピード、時差等の基準を記載。他に、手話放送における手話通訳者の画面上の大きさや、解説放送における表現方法等が、詳細に記載。
- ・ 時間帯としては、字幕と解説についてはプライムタイムに放送されることを奨励。手話についてはプライムタイム以外での放送を許容。
- ・ 制度として、上述の義務付けやガイドライン以外のもの（例えば助成等）は行われていない模様。

6-4 字幕等付与の実際

- ・ 字幕制作は生放送の場合、特殊なキーボードを用いた速記入力か、リスピーク方式を採用。
- ・ また、BBC では更なる効率化のための技術開発を実施中。
- ・ 手話放送については CG 手話や、クローズド化の技術開発を、また解説放送については音声圧縮やボリュームコントロールについての技術開発等を BBC が実施中。
- ・ その他については、日本の場合とほぼ同じ。
- ・ なお、自社制作と外注の双方が行われているが、字幕制作コストは 1 時間当たり 250～300 ポンド (1 ポンド≒210 円)、解説は 1 時間当たり 500 ポンド程度と言われている。

6-5 字幕等付与のドライビングフォースと今後の展望

- ・ CC 等について、日本よりも付与が進んでいる点や、高い目標が掲げられた背景には、制度的側面に加えて、以下のような社会的状況が大きく作用している事情があると考えられる。
 - 英語の入力が日本語に比べると容易である点
 - 人口当たりの視聴覚障害者の数が多い点（市場として、また働きかける力として重要）²

² 聴覚障害者の人口比は、日本では公式統計で 0.2%だが、英国 Royal National Institute for the Deaf People によると人口比 14.9%。これは、英国における聴覚障害の基準が日本とは異なるため。視覚障害者についても、日本では人口比 0.3%だが、英国では Royal National Institute for the Blind People によると人口比 1.7%。同 Institute によると、「何らかの視覚障害」を有する人口比は 3.4%。

6-6 緊急放送

- ・通常番組を中断するような緊急ニュース放送では、緊急情報を主音声で伝えるのに加え、CC、OC、テロップ等で提供する必要がある。

7 韓国字幕放送等に関する調査

7-1 番組への字幕や解説付与の義務付け

- ・義務付けは無いが、近年の放送法施行令や放送評価規制の改正等において、字幕・手話・解説放送の増大を奨励するような制度改革が行われた。
- ・現在は更に、これらの放送を義務付けるような放送法改正の動きが進展中。

7-2 字幕放送等の放送実態

- ・字幕放送等の放送実態は以下の通り。

放送局	年度	平均週間放送時間(比率)			
		総放送時間	字幕放送	手話放送	解説放送
KBS-1	2001年	6,820分	2,050分(30%)	65分(1%)	-
	2005年	7,330分	2,750分(38%)	35分(0.5%)	70分(1%)
KBS-2	2001年	6,990分	-	-	-
	2005年	7,360分	1,745分(24%)	100分(1%)	290分(4%)
MBC	2001年	7,513分	1,836分(24%)	40分(0.5%)	55分(1%)
	2005年	7,195分	2,360分(33%)	40分(0.6%)	295分(4%)
SBS	2001年	7,105分	438分(6%)	40分(0.5%)	-
	2005年	7,305分	2,410分(33%)	20分(0.3%)	326分(4.5%)
EBS	2001年	6,980分	565分(8%)	-	-
	2005年	7,050分	1,090分(16%)	90分(1%)	-

(出所：韓国放送研究院まとめ)

- ・手話放送の2006年1月における週平均の放送実態は、総放送時間中0.8%の350分程度。
- ・解説放送の2006年1月における週平均の放送実態は、総放送時間中3.6%の1480分程度。

7-3 字幕放送等に関するその他制度

- ・ 受信機器の普及や、番組拡大の支援のために、国庫からの助成が行われている。2006年の助成金額は24億ウォン（およそ2.3億円）。

7-4 字幕放送等の制作の実態

- ・ 字幕や解説の制作は専門業者への外注により行われるケースがほとんどであり、制作実務は日本とほぼ同様。字幕の正確さは98%、時差は4秒以内とのこと。
- ・ 字幕制作費は1時間当たり21万ウォン（2万円）程度。
- ・ 解説制作費は1時間当たり100万ウォン（10万円）程度。

7-5 字幕等付与のドライビングフォース

- ・ 障害者向け情報アクセス改善に対する近年の社会的関心増大
- ・ ハングル文字の入力が比較的容易である点。（英語ほどではないが、日本語のように「変換」を要する漢字が近年はあまり使われなくなっている。）

8 中国字幕放送等に関する調査

- ・ 2006年3月の北京における字幕（中国ではオープンキャプション）、手話、解説放送の放送実態は以下の通り。

表 北京市の地上波テレビにおける字幕放送等の時間数と割合
(2006/3/7~3/13 調査、対象：地上波6チャンネル)

	字幕	手話	解説
視聴覚障害者向け番組の放送時間数、及び全放送時間中の割合 (%)	13,955 分 (30.6%)	120 分 (0.26%)	0 番組 (0%)

- ・ このうち字幕番組のジャンル別割合は以下の通り。なお、手話放送は、毎日午前中に放送のニュース番組。

ジャンル	字幕付き放送時間及び割合
時事評論・ニュース	1660 分 (11.9%)
ドラマ	4570 分 (32.8%)
教育	3625 分 (26.0%)
芸術	3225 分 (23.1%)
アニメ	490 分 (3.5%)
バラエティ	385 分 (2.8%)

- ・ 字幕制作方法は、通常のキーボードを用いた高速入力が行われているとのこと。
- ・ 中国における字幕放送拡大のドライビングフォースとしては、以下が考えられる。
 - 方言が使われる地域が多いため、標準語を推進する国家政策の一環と位置付けられている可能性
 - 非常に安い人件費を活用した人海戦術が可能である点
 - 少ない打鍵での入力が可能である点（部首入力）

9 国内における字幕放送等の今後の展望に関する調査

- ・ 生放送への字幕付与の見通し：当面は、高速キーボード入力による方法が主流。一部、対応が可能な範囲についてはリスピーク方式が採用されるようになる。中長期的には、技術的ブレークスルーが起こればダイレクト音声認識が広がる可能性。
- ・ 但し、高速キーボード入力の課題として、討論番組等のジャンルへの対応が困難な点や、サービス提供事業者のキャパシティ不足の可能性、といった点がある。
- ・ 録画番組への字幕付与：VTR 納品が放送直前になるケースが増えているため、予め字幕を付けることが困難になりつつある。→ 生放送と同じ方法での字幕付与が増える可能性。
- ・ 手話放送の見通し：上述の、VTR の直前納品という実態に対し、「後から手話を入れる」ことが困難になりつつある。CG 化の研究開発は行われているが短期的な実用化見通しは立っていない。
- ・ 解説放送の見通し：放送の2週間前に完成台本とテープが納品されていないと解説を制作できないため、納期・コスト面で困難になりつつある。原稿自動読み上げのような研究がなされているが、短期的な実用化見通しは立っていない。

以 上